

(様式2)

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

(愛媛県立新居浜西高等学校)

学校番号 (05)

評 価 実 施 日	令和 8 年 2 月 12日 (木)		
学校関係者評価委員	氏 名	所 属 等	備 考
	伊藤 優子	学校評議員	
	柿木 仁	学校評議員	
	石井 亮	地域住民	
	伊藤 嘉秀	地域住民	
	能瀬 伸一	地域住民	
	白川 尚弘	新居浜市立北中学校長	
	三木 悟志	P T A 会長	
学校評議員	加藤 喜裕	地域住民	
	永井 誠司	地域住民	
	三木 由紀子	地域住民	
評 価 ・ 提 言 等		提言等に対する改善方策等	
1 今年度の最終評価について (1) 学習指導 「学力の向上」領域では、学習時間や模試の偏差値等、目標を達成していないものもある。 生徒数の減少により、入学する生徒の学力低下が案じられるが、そのために退学者も増えているのか。また、そのような生徒にも配慮をした教育活動を行ってほしい。 小中学校の授業などではタブレットでオンライン英会話をしているのを見かけるが、西高ではしていないのか。 (2) 生徒指導 中学校の登校指導中に、気持ちの良い元気な挨拶をしてくれる生徒が多い。陸上部、野球部など毎朝頑張っている生徒の姿もよく見かける。 本校生徒の自転車事故については件数が多い。自分も運転中に危ないと感じたことがあるが、注意力に乏しい生徒が周囲を見ていない状況がある。交通安全に関しては、根気強く繰り返し注意してほしい。 (3) 進路指導 「可能性の追求」領域の、進路指導に関わる取組については高い評価になっており、学校としては良いサポートができていると思う。生徒たちにこれから良い結果が出ることを期待している。 国公立大学の合格数が目標であることは分かるが、難関私立大学について書かれていない。他の進学校では目標の中に難関私立大学を含めているところもあり、本校でもそうしてほしい。 (4) 国際理解教育 国際理解教育については、歴史的な視点を持つことが必要だと感じている。自分に関係ないとする生徒も多いので、授業を含む様々な機会に世界で起きていることに目を向けさせる資料を提供すれば、自然に関心を持つようになるのではないかと。 国際理解教育については、地元で開催される外国人による日本語スピーチコンテストや、外国人対象の防災・減災セミナーのボランティアなどへの参加を促せばよい機会になるのではないかと。 (5) 業務改善 働き方改革の一環として、高校の部活動については地域移行等していないのか。		・今年度導入したオンライン学習支援サービスも活用しながら、学習の個別最適化と学びの自律を促すことで学力向上を目指したい。 ・退学者はほとんどいないが、学習のペースが合わないなどの理由で通信制等へ転学する生徒は毎年いる。多様な生徒一人一人に丁寧に向き合っていきたい。 ・数年前に導入した時期があったが、費用の面や通信トラブルなど様々な問題があって中止した。利用しやすい環境が整えば再度検討したい。 ・挨拶の指導も含めて、引き続き高校生として気持ちの良いマナーを身に付けさせたい。 ・ホームルームや全校集会など様々な場面で交通事故、交通ルール、交通マナーについて注意をしているが、今後も根気強く注意をしていきたい。 ・今後も各担任、教科担任で情報を共有し、より高い目標を持たせながら一人一人に応じた進路指導を行っていきたい。 ・難関私立大学も評価しているので、来年度は評価項目の文章表現を検討したい。 ・スクールミッションに「国際感覚を養う」とあるので、2年前から新たに取り入れた評価項目である。本校では、留学生の受け入れや地域の外国人の方との交流、海外で働く方による講演、国内留学や海外研修への参加など様々な取組は進めているが、希望者対象のものが多いため、関心のない生徒や保護者には伝わっていないように思える。今後はいかに情報提供するかが課題である。 ・本校では部活動の数が多く、以前は多くの先生が複数の顧問を兼任していたが、それを避けるために部活動の統廃合による精選を行っている。外部指導者を活用したいが、指導できる人材が不足している。来年度は現在よりも外部指導者が増える見込みである。	

2 学校評価アンケート 生成AIを使って学校評価アンケートの内容を分析したが、目標の設定が適切かどうかを検討する必要があると感じた。また、教員の仕事量や生徒の現状を考えると、全ての項目でAを目指さなくてもいいのではないと思う。 アンケートで「分からない」という保護者の回答が多かったというが、大半は学校に関心があればわかる項目であり、無関心な保護者が多いことが問題ではないか。次年度は「分からない」の数を減らすことも目標にしてはどうか。 国際理解教育など、生徒・保護者・教員で評価が異なる項目があるが、この3者の評価が一致するようになればよい方向に進むと思う。 読書冊数について、以前と方法を変えたいが、どのように調査しているのか。他校では一人当たり年間20冊を目標としているところもあり、本校の目標、結果ともに少なく感じる。 アンケート項目ごとに高い評価、低い評価はあるが、全体としてよく頑張っていると思う。	・生徒一人一人が充実した学校生活を送ることを最優先に考えながら、学校として適切な目標の設定ができるようにしたい。 ・「分からない」の回答数を減らすことを目標にすることを検討したい。 ・生徒・教員の評価は数値の差は若干あるが、ほぼ同じような傾向である。今後、保護者に正しく情報を発信することが必要である。 ・昨年度は学期ごとに読んだ本のタイトルを調査していたが、書かない生徒も多かったため、今年度はジャンル別の冊数のみを調査した。毎月調査している学校もあるので調査回数を増やすことも検討している。また、図書委員会などを中心に読書活動の啓発も工夫していきたい。 ・本校の教育活動に必要とされることを、今後も様々な角度から評価して検証していきたい。
3 学校運営への提言 (1) 運動会 今年度も9月の運動会に参加したが大変暑い時期であった。今後も厳しい暑さが予想されるので、生徒だけでなく先生方も熱中症に注意して、その対策に当たってほしい。 運動会を拝見したが、準備中から熱心に練習する声などが聞こえてきて、学校生活に活気のある様子が感じられた。 (2) 全般 以前に比べて学校に対する保護者の厳しい意見が増えており、先生方の御苦労が伺える。 市内の中学生が目標とする高校だと思う。今後もよい生徒を育てていただきたい。 学力や興味・関心等多様化しており、西高だからできて当然ということばかりでもなくなっている。出来ないこと、苦手なことをマイナスととらえるのではなく、チャレンジとして考えられる西高生であってほしい。 様々な考え方を持つ生徒や保護者の皆さんとの関わりの中で苦労している先生方もいると思う。自分の考え方はもちろん大切だが、違う考えを持つ方々との関わりは自分が育つことにもつながる。生徒にも多様化をプラスと捉える生き方を教えてほしい。	・生徒、教員の健康、安全を第一に考えた実施方法を検討したい。 ・行事際の騒音などにも配慮しないといけませんが、地域の温かい目が大変ありがたい。 ・家庭との連絡を密にしたり、情報発信の方法を工夫したりして、保護者との信頼関係を構築したい。 ・今後も地域の期待に応えられるよう、教職員が一丸となって努力していきたい。 ・授業だけでなく、探究学習、部活動、学校行事などで、生徒の主体的な活動をうながしている。今後も、様々な事に主体的に取り組む雰囲気作りと、声掛けや後押しをしていきたい。 ・多様性を受容することも本校のスクールポリシーに含まれており、自分の考えを多様な意見と照らし合わせる活動を今後も大切にしたい。